



推進委員会 委員長  
工学部環境工学科  
准教授 立田真文

産学官・教育コーディネーター 山田恵宣

射水市では「地球温暖化の抑制」「循環型社会の形成」「新たな産業の発掘・雇用の創出」「成功するビジネス」を目標として、国の支援を受けながら、平成20年度に構想を立て、平成21年度から実践と議論を重ねています。

射水市で発生するバイオマスを可能な限り循環利用するシステムを構築するため、富山県立大学の工学部環境工学科、立田准教授を委員長とし、射水市が中心になって関係機関・地域企業・商工会などの諸団体が集まり、創意工夫を凝らしています。また、民間から本構想への提案が応募され、協議されました。

現在、市内に発生するバイオマス貯存量から、今後実現性のある優れた事業化提案を、産学官一体となって具現化に向けて支援していきたいと思ひます。



↑推進委員会風景

### 富山県立大学の関わる具体的「産学官連携内容」

#### 1. 農業系未利用バイオマスの利活用



←ペレット成型作業  
もみ殻ペレット→

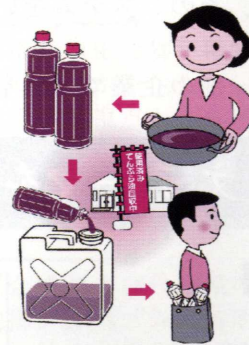
ここでは、もみ殻・稲わらを原料とし、その燃焼灰から珪酸（シリカ）を抽出する実証研究をしています。このシリカは、農業用の肥料や土壌改良剤としても利用され、ビジネス化に向けて支援しています。高品質な抽出により、化粧品や太陽光パネルの原料にすることも可能です。



#### 2. 食品廃棄物系バイオマスの利活用

家庭から出る使用済み天ぷら油について、射水市内の家庭に意識調査を行い、廃食油の回収体制の検討を行っています。

一般的に、廃食用油はバイオディーゼル（BDF）の製造に使われますが、射水市では灯油や重油と混合させることで「エマルジョン化」させ、ボイラー燃料として使用します。そうすることで環境により優しい、ビジネス化にもつながる展開となります。



#### 3. バイオマスの教育・食育へのサポート



↑立田准教授の出前講座

バイオマス出前講座を射水市内の小学校などで実施しています。

また、学校農園に給食の残飯を堆肥させ、それ使って土作りから野菜の育成、収穫までを自らの力で行うことで、食育を推進し、農業からの環境教育をサポートしています。



↑児童の野菜育成作業

バイオマスとは？ 有機物が作り出すエネルギーの原料のこと。  
一般的には家畜排泄物や生ごみ、木屑など動植物から生まれたもので再生可能なもの。  
※ただし、化石資源(石油・石炭・天然ガス)は除く。

富山県企業ひいては地域の発展を目指して

2010.2月号  
富山県立大学  
研究協力会  
会報

No.009

# Techno Times

編集・発行 | 富山県立大学研究協力会事務局 (富山県立大学地域連携センター内)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180 TEL:0766-56-0604 FAX: 0766-56-0391

E-mail tpu-liaison@pu-toyama.ac.jp HP <http://www.pu-toyama.ac.jp/kyouryokukai/>